



田無神社

第48号

神無月

発行所
田無神社社務所

〒188-0011
東京都西東京市田無町3-7-4
TEL 042-461-4442

編集発行人
賀陽 智之

令和8年 例大祭のご案内

例大祭につきまして、総代・世話人会での審議の結果、宵宮は10月10日(土)、本宮は10月11日(日)に斎行されることとなりました。宵宮では龍神神輿および女神輿の渡御を、本宮では本社神輿および子供神輿の渡御、宮太鼓の巡行を執り行います。

御し、午後3時45分に還幸いたします。還幸後、境内参道にて、午後4時より第1回目の宮入道中神事、午後4時20分より第2回目の宮入道中神事を行います。還幸祭は、午後4時30分より社殿にて執り行われます。

【宵宮のお神輿】

10月10日(土) 午後8時より、社殿にて宵宮祭を斎行いたします。龍神神輿および女神輿は、午後5時30分に御飯屋を出御し、午後7時30分に田無神社立体駐車場2階入口へ還幸いたします。

【本宮のお神輿】

10月11日(日) 午前10時より、社殿にて例大祭の祭典を斎行いたします。本社神輿は、宮太鼓に先導され、午前10時45分に社殿前を出



令和7年 本社神輿渡御



令和7年 宮入道中



令和7年 女神輿渡御



令和7年 龍神神輿渡御

神輿役員紹介

神幸委員	野口勉殿
奉納受付	松川正秀殿
會計	肥沼岳行殿
會計	海老沢進殿
鉄杖	矢ヶ崎宏行殿
鉄杖	大谷辰夫殿
御旗	鵜野喜憲殿
御旗	中野敏男殿
御旗	安田庄次殿
御旗	松川武司殿
太鼓副委員長	長谷川昇殿
太鼓副委員長	行橋良和殿
太鼓副委員長	濱野祐次殿
境内副委員長	大谷光康殿
境内副委員長	並木善衛殿
境内副委員長	中野恭一郎殿
神幸副委員長	小泉吉男殿
神幸副委員長	小林孝幸殿
神幸副委員長	清水正幸殿
神幸副委員長	常田青児殿
神幸相談役	石井重夫殿
神幸相談役	下田信助殿
太鼓委員	細田勇雄殿
境内委員	岡部長敬殿
神幸委員	村田建三殿
祭典副委員長	村田恭男殿
祭典副委員長	新井浅浩殿
祭典副委員長	中村勇殿
祭典副委員長	濱野智治殿
祭典副委員長	鴨志田隆殿

感謝 担ぎ手警備諸団体

神幸委員	尾林長承殿
神幸委員	鵜野義雄殿
境内委員	笠原末雄殿
境内委員	新井鉄夫殿
境内委員	下田二三四殿
境内委員	下田富盛殿
境内委員	濱野博殿
境内委員	平山眞栄殿
境内委員	岡部忠明殿
境内委員	大谷孝良殿
神幸委員	アスタ専門店街出店者会・株式会社アスタ西東京・極真空手田無道場・警視庁田無警察署・三榮神輿保存会・三榮神輿保存会花風舞綺・サンサービス・田無北口商店会・田無北口商店会花水貴・田無地区交通安全連合会青年部・田無商業協同組合・田無神社維持費奉納崇敬者・田無神社氏子青年部・田無神社職員会・田無神社職員つむぎ会・田無神社崇敬会・田無神社世話人会・田無神社総代会・田無神社奉賛会・田無神社奉仕団・田無囃子保存会・大栄商店会・第4区本町会奉賛会・東京信用金庫田無支店・西東京市交通安全協会・西東京市消防団・西東京青年会議所・西東京市防犯協会・橋場商店会・保谷和太鼓会・柳沢津島神社敬神会・柳沢文化財保存会・六商

協議会半纏保存会

(五十音順・敬称略)

本社神輿の修復工事について

本社神輿は、戦後復興への願いを込め、昭和22年(1947年)に浅草の宮本卯之助商店によって奉製されたものです。このたび、約80年にわたり担がれてきた本社神輿について、昭和60年(1985年)以来、約40年ぶりとなる大規模な修復工事を実施しました。

昭和22年(1947年)の「御神輿新調・太鼓張替車新調奉納終始決算報告書」によると、氏子から総額80,920円の奉賛金が寄せられ、そのうち45,000円が神輿の新調費に充てられました。また、同年7月14日・15日には、神輿や太鼓などの完成を披露する「廣目祭」が斎行されたことが記録されています。

今回の修復工事では、長年にわたり神輿全体を支えてきた心棒を新たに取り替えるとともに、経年によって傷みが見られた飾り金具を新調するなど、外観の美しさを整えるだけでなく、安全面にも十分に配慮した改修を施しました。長い歲月の中で受け継がれてきた本社神輿の伝統を大切に守りながら、今後も末永く渡御を続けられ

るよう、各部にわたって丁寧な修復が行われました。修復を終え、往時の輝きを取り戻した本社神輿は、10月11日(日)に斎行される例大祭本宮において、再び氏子の皆様の手によって担がれ、氏子区域を渡御します。

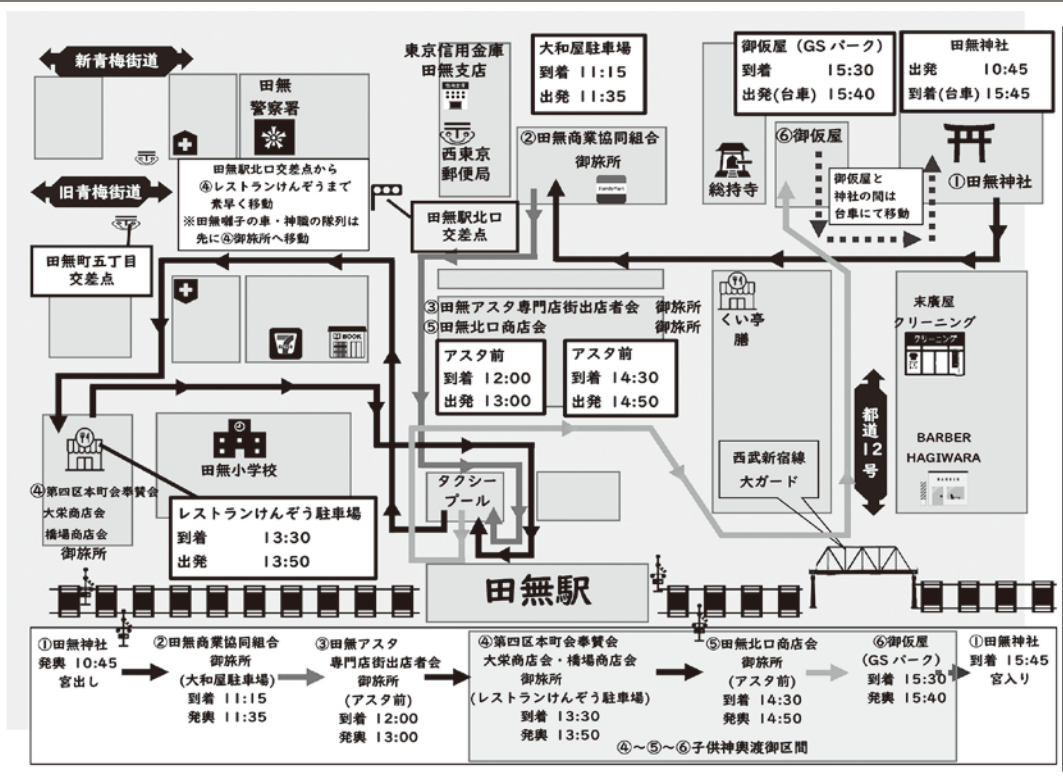


昭和60年 神輿渡御

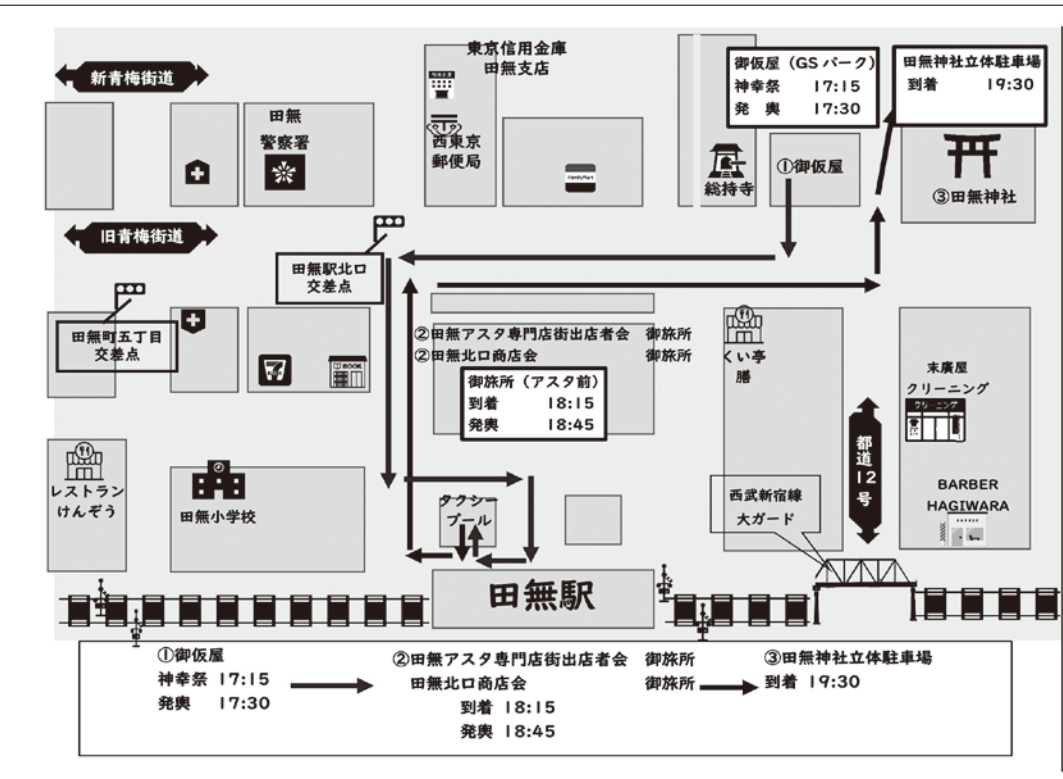


昭和22年 神輿お披露目

令和八年十月十一日(日) 本社神輿巡幸図



令和八年十月十日(土) 龍神神輿・女神神輿巡幸図



みんなで子ども神輿を担ごう！

10月11日(日)に行われる田無神社例大祭で、子ども神輿を出します！

参加できるのは、小学3年生から6年生までのお子さんです。先着80名となりますので、参加を希望する方は、下記の内容をよく読んでお申し込みください。

みんなで力を合わせて、元気いっぱいにお神輿を担ぎましょう！

〔参加できる学年〕 小学3年生・4年生・5年生・6年生

〔参加費〕 無料

〔申込期間・申込方法〕 9月12日(土)から10月4日(日)までに、田無神社社務所へお電話でお申し込みください。(田無神社社務所 電話番号042-461-4442)

※先着80名まで参加できます。

※申し込みの際に、参加するお子さんの「お名前・学年」と「電話番号」をお伝えください。

〔集合時間・集合場所〕

集合時間 午後1時30分までにレストランけんぞう入口前の受付

東京都西東京市田無町6丁目16番13号

受付で、子ども神輿を担ぐときに着る「はんてん」をお貸しします。

〔子ども神輿の巡幸ルート・時間〕

午後1時50分 レストランけんぞう前を出発→午後3時30分ごろ 旧福澤屋駐車場(GSパーク駐車場)に到着 ※到着後、受付ではんてんを返却してください。はんてんと引き換えに、お菓子をお渡します。

子ども神輿参加規約

一、参加者は、子ども神輿責任者および係員の指示に必ず従ってください。

一、申込期間中に所定の方法で申し込みをした方のうち、先着80名が子ども神輿を担ぐことができます。

一、付き添いのご家族は神輿の列には入らず、神輿から離れた歩道上など、安全な場所から応援してください。

一、当日は、指定された集合時間までに集合場所へお越しください。受付ではんてんをお貸しします。

一、神輿を担ぎ終えた後は、必ず受付にはんてんを返却してください。

一、荒天の場合は、子ども神輿の巡幸を中止します。中止となる場合は、前日までに田無神社公式ホームページでお知らせします。

一、参加者および保護者の方は、安全管理に十分ご注意ください。

シリーズ
「尉殿考」第六回

尉殿の神格を特定し、その由来を理解しようとする試みは、明治初期の初代の田無神社社掌(宮司)の賀陽濟、二代目社掌の賀陽尚賢の時代から続いてきました。筆者も可能な限り調査を重ねておりますが、現時点では決定的な資料の発見には至っていません。尉殿権現については、今後、論文等による学術的な研究の蓄積によって、さらに解明が進むことを期待しています。

令和4年(2022年)に刊行した御遷座三五〇年記念誌『写真と資料から見る田無神社』では、尉殿についてのさまざまな説・解釈を紹介し、垂迹神である俱利伽羅不動明王は雨をもたらす水の守護神、シナツヒコノミコト・シナトベノミコトは風雨の調和と五穀豊穡を司る神であることから、尉殿は水の神であると整理しました。その際、紙幅の都合により記載できなかった説・解釈については、社報において、「尉殿考」として紹介しています。

「尉殿考」第1回では、昭和38

年(1963年)に大國魂神社が刊行した『武蔵府中物語』の尉殿の記述を紹介しました。第2回では、昭和59年(1984年)に保谷市役所が刊行した『保谷市史別冊二保谷の石仏と石塔』における尉殿の記述を取り上げました。第3回では、平成18年(2006年)に刊行された片桐譲著『神と仏と村落共同体——宗教社会史の視座から——』を紹介しました。第4回では、昭和61年(1986年)に埼玉県神社庁が刊行した『埼玉の神社入間・北埼玉・秩父』を紹介しました。第5回では、平成3年(1991年)に埼玉県郷土文化会より刊行された『埼玉史談』第38巻第2号に収録された、神山健吉氏の論考『ジョウドノ考(下)』を紹介しました。今回の第6回では、平成29年(2017年)にまつやま書房より刊行された神山健吉著『武蔵の商都「引又」の栄光〜新河岸川舟運を最大に享受〜』を紹介します。

本書では、第5回で紹介した論考と同様に、尉殿権現・重殿権現と呼ばれる神社の祭神や信仰の成り立ちについて、水神信仰と十一面観音、白山信仰との関係から考察したものです。これらの神社では、現在伝えられている祭神が地

域によってそれぞれ異なり、祭神そのものが明確でない例も少なくありません。著者はその理由について、もともと湧水地の神として祀られていたものが、次第に川や沼、さらには水全般をつかさどる神へと信仰の範囲を広げ、その過程で、後世になってさまざまな祭神が当てはめられたためではないかと推測しています。

次に、これも既に何回か述べてきたように、この神社にあつては、その多くは祭神が不明であるが、判明しているものについて見ても、その祭神は必ずしも一定していない。これは前述の如く、当初は湧水地の神様として祀られていたものが、後に川の神・沼の神ともなり、やがて水全般の神様になっていったらしく思われる過程の中で、後からもつともらしい祭神を付会させていったために、幾種類にも異なった祭神が祀られるようになったのであろう。しかし、

保谷・田無の尉殿権現社と大野村の重殿権現社がそれぞれ十一面観音を本地仏にしていること、小川町能増の重殿にある八宮神社が同じく十一面観音を本地仏

一方、保谷・田無の尉殿権現社、大野村の重殿権現社、小川町能増の八宮神社では、いずれも十一面観音が本地仏とされています。複数の地域において、共通して十一面観音が本地仏とされていることから、著者は、十一面観音への信仰が、尉殿権現・重殿権現信仰の古い形を伝えている可能性を指摘しています。

として、これから見て、この観音が最も古い時期の祭神ではないかと思われる。

ところで、十一面観音が白山で水分の神として祀られていることは衆知の事実であるが、保谷の尉殿権現社が正保三年(一六四六)まで鎮座していた谷戸付近の古くからの住民が信仰していたのは白山さんだと言うことだし、梁谷村の重殿権現社に重殿大権現と白山妙理大権現が併祀されていることと相俟つて、白山―十一面観音―ジョウドノ権現の図式が十分に考えられるところである。

神山健吉『武蔵の商都「引又」の栄光〜新河岸川舟運を最大に享受〜』まつやま書房、平成29年(2017年) p.280

シリーズ「神社と戦争」

第8回 第一次世界大戦②

令和4年(2022年)に刊行された御遷座三五〇年記念誌『写真と資料から見る田無神社』は、田無神社の長い歴史を、貴重な写真や資料を通して振り返る構成となっております。なかでも第8章「神社と戦争」では、田無神社と戦争との関わりについて、当時の祝詞や関連資料を紹介しています。

また、終戦の日に当たる令和7年(2025年)8月15日に、田無神社が保管してきた戦争に関する歴史資料を「神社と戦争」としてWeb上で公開いたしました。

これは、戦争の悲惨さと地域の歴史を、未来を担う世代に伝えていくことを目的とした取り組みです。戦争がもたらした悲しみや苦しみに向き合いながら、祈りを捧げ続けた人々の姿を今に伝えることは、平和の大切さを見つめ直すきっかけとなるはずです。田無神社が果たしてきた役割、そして当時の人々の思いに、心を寄せていただけたら幸いです。

本号では、御遷座三五〇年記念誌『写真と資料から見る田無神社』

に掲載した資料や、刊行後の倉庫調査によって新たに発見された資料のうち、社報第46号では掲載しきれなかった第一次世界大戦に関する資料を、「第一次世界大戦②」と題してご紹介いたします。

ばひつ
馬匹検査に関する通知

本資料は、大正4年(1915年)7月14日付で、北多摩郡長から田無神社社掌宛てに発せられた、馬匹検査の日程を知らせる通知文書です。

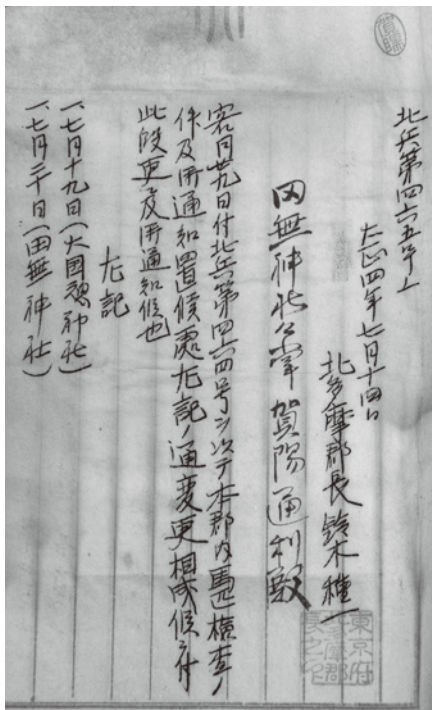
文書には、先に通達されていた検査日程の変更が記されており、7月19日に大國魂神社、翌20日に田無神社で馬匹検査を実施することが伝えられています。

戦争において、「馬」は兵士が乗るだけでなく、武器や弾薬、食料などの物資輸送にも用いられ、軍隊の活動を支える存在でした。旧日本陸軍は、軍用の動物として犬や鳩も用いていました。その中でも馬は、戦場における移動や輸送を担う重要な役割を担いました。

明治初期の日本では、欧米の馬と比べて体格の小さい在来馬が多く、軍用に適した馬を確保することが課題となっていました。そのため、軍用馬を平時から育成・確保し、戦時には速やかに動員できる体制を整えるため、軍馬政策が推し進められました。地域で飼育されている馬を定期的に集め、頭数、年齢、健康状態、体格、歩行

の様子などを確認する検査を行い、軍用に適すると判断された馬は登録され、軍に引き渡されることがありました。

本資料は、第一次世界大戦期における軍馬政策の一端を伝えるとともに、田無神社が軍事に関わる会場としても使用されていたことを示す貴重な記録です。



資料No.77 ばひつ 馬匹検査に関する通知

戦時下の天気祭

日照りが続いた際には、降雨を祈願する「天気祭」が執り行われました。その際に、雄獅子または雌獅子の獅子頭を納めた輦台神輿が担がれました。この獅子頭は金箔で仕上げられており、現在は西東京市の文化財に指定されています。神輿と獅子頭は、もともと田無村の上宿と下宿が毎年神楽を競い、豊作を占う際に供えられたものと伝えられています。獅子頭を載せる輦台神輿は二基ありますが、雄獅子と雌獅子を同時に担ぐと互いに喧嘩をするとの言い伝えがあるため、渡御の際には、いずれか一基のみを担ぐことになったとされています。大正3年（1914年）の神輿巡幸図によると、神輿は田無神社を出発した後、青梅街道を通り田無橋場へ向かいます。その後、青梅街道を再び通り、田丸屋・浜中酒店前で折り返し、田無神社へ戻ったことが分かります。

第一次世界大戦は、大正3年（1914年）7月28日、オーストリア・ハンガリー帝国がセルビアに宣戦布告したことを契機として始まりました。この年、田無神社では、異例ともいえる3回の天気祭が斎行された記録が残されています。確認できる日付は、7月25日、7月28日、8月10日です。また、7月15日には津島神社の天王祭、9月19日には田無神社の例大祭が行われていることから、およそ3か月の間に、5回の神輿渡御（神楽車巡行）が行われた可能性があります。翌大正4年（1915年）にも、7月28日と8月4日に天気祭が斎行されました。二年続けて複数回の天気祭が行われた背景には、当時の深刻な少雨があったと考えられます。

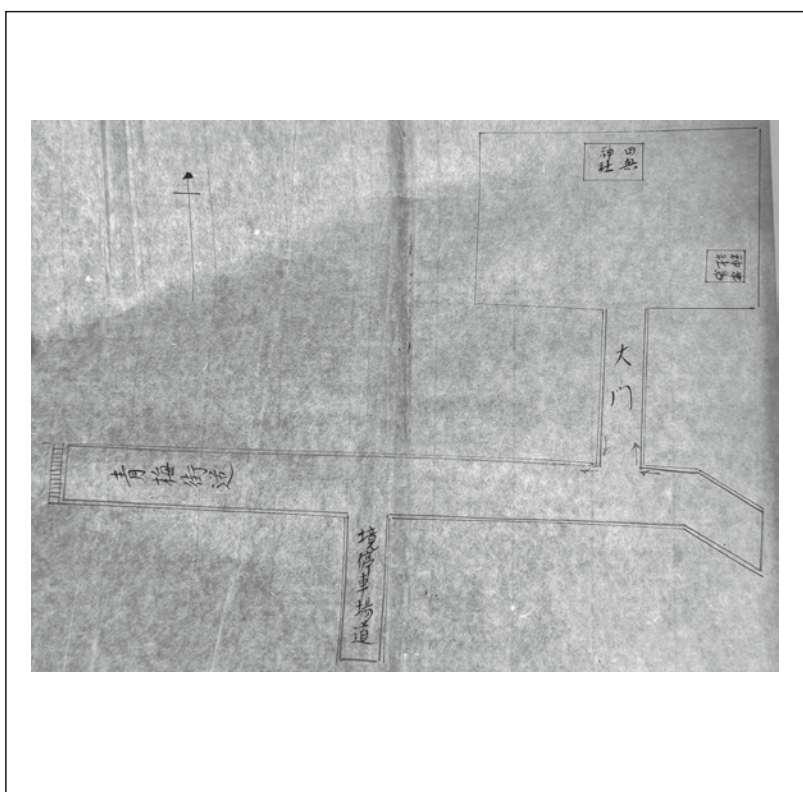
気象庁の東京観測記録には、明治8年（1875年）6月以降の記録が残されています。大正3年（1914年）7月の東京の降水量は26.0ミリで、観測開始から同年までの7月としては最も少ない値でした。また、この年は最高気温が30度以上となった日が19日を数え、当時としては厳しい暑さと乾燥が続いた月であったことがうかがえます。

翌大正4年（1915年）7月の降水量は、さらに少ない19.5ミリでした。一方、8月の降水量は大正3年（1914年）が278.0ミリ、大正4年（1915年）が326.1ミリと、いずれの年も7月から大幅に増加しています。天気祭によって祈り

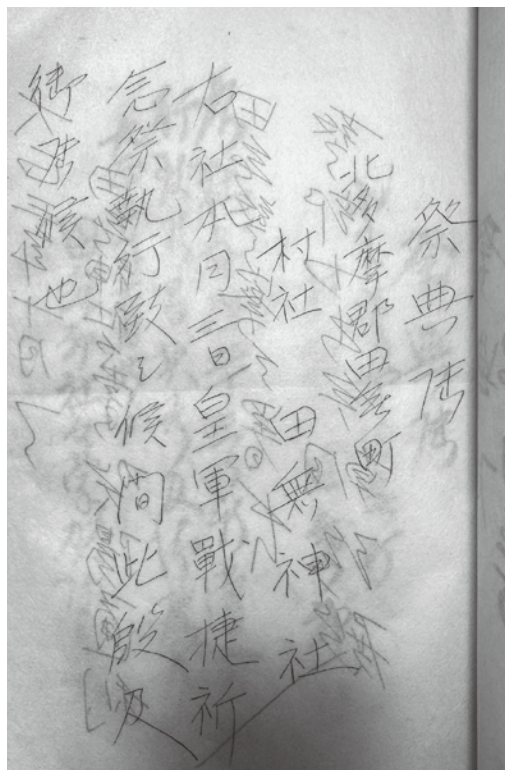
が天に届いたのかもしれませんが、兩年とも、夏の前半と後半とで天候が大きく変化したことが分かります。

また、大正3年9月12日には第一次世界大戦の「宣戦奉告祭」、同年10月3日には「皇軍戦捷祈念祭」が田無神社で斎行されました。日本は同年8月23日、日英同盟を根拠として連合国側に立ち、ドイ

ツ帝国へ宣戦布告しました。10月3日は、日本海軍の南遣支隊が、当時ドイツ領であった南洋諸島への進出を開始した時期にあたります。田無神社に残るこれらの記録からは、日照りに対する地域の祈りと、第一次世界大戦への日本の参戦という出来事が、同じ時代のなかで重なり合っていたことを知ることができます。



資料No.78 大正3年(1914年)天気祭の神輿巡幸図



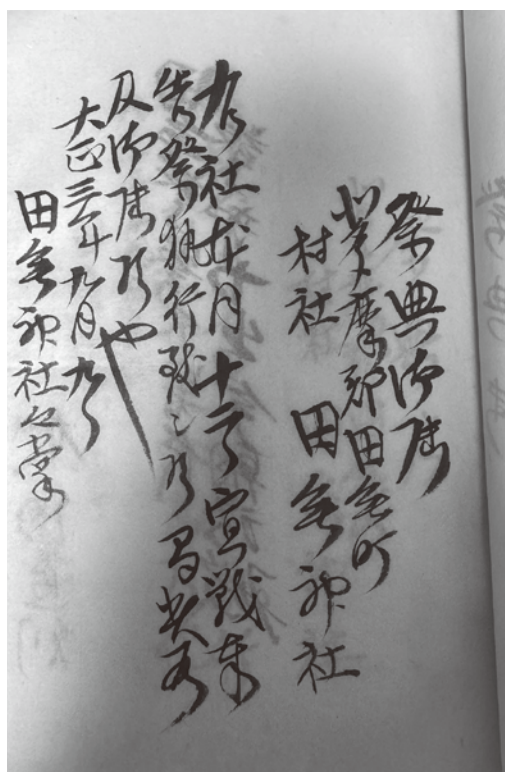
資料No.79 宣戦奉告祭通知



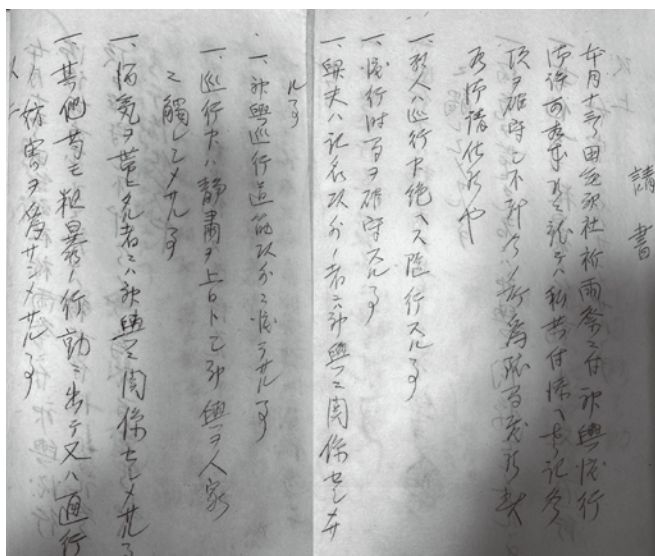
獅子頭



輦台神輿



資料No.80 皇軍戦捷祈念祭通知



資料No.81 大正3年(1914年)天氣祭担ぎ手規約

宣戦奉告祭執行届と奉告祭祝詞

上保谷に鎮座する尉殿神社、下保谷に鎮座する天神社、上保谷新田に鎮座する阿波洲神社において、宣戦奉告祭を斎行する旨を北多摩郡長へ届け出た「宣戦奉告祭執行届」を紹介します。また「奉告祭祝詞」が掲載された内務省令についてもここに記します。

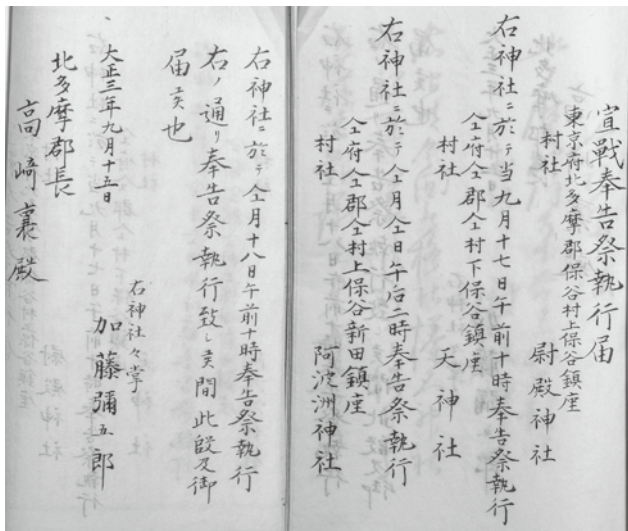
宣戦奉告祭執行届には、尉殿神社と天神社では大正3年（1914年）9月17日午前10時から、阿波洲神社では翌18日午前10時から、それぞれ宣戦奉告祭を斎行することが記されています。

内務省令では、第一次世界大戦への参戦に伴い、全国の神社で執り行う宣戦奉告祭の祝詞が定められています。

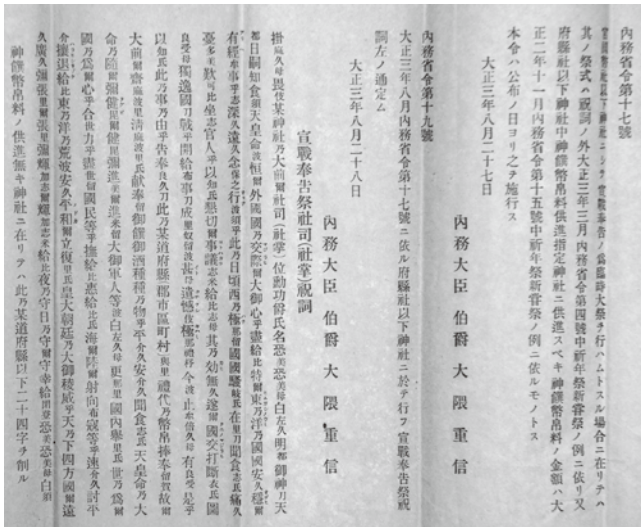
大正3年（1914年）7月に第一次世界大戦が始まると、日本は日英同盟に基づき、同年8月23日にドイツへ宣戦を布告しました。これを受け、内務省は8月28日には府県社以下の神社で臨時大祭として斎行する宣戦奉告祭の祝詞の文面を定めました。これは、内務大臣を兼任していた大隈重信の名で公布されました。なお、この祝詞を祝詞用紙に筆で書き記した

「ドイツ帝国との国交断絶と開戦奉告祭祝詞」については、以前、社報第46号で紹介しています。祝詞文中には、次のような一節があります。

「官人乎以知氏懇切爾事議志米給比志每其乃効無久遂爾國交打斷衣氏圖良受母獨逸國刀戰平開給布事刀成里奴留波甚母遺憾伎極那禮杼」
これは、官吏を通じて懇切に交渉を重ねたものの、その効果がなく、ついに国交を断絶し、意図せ



資料No.82 宣戦奉告祭執行届



資料No.83 奉告祭祝詞

戊申詔書

明治41年（1908年）10月13日、明治天皇は、国民の生活態度や社会の進むべき方向を示す「戊申詔書」を発しました。「戊申」という名称は、この年の干支に由来しています。

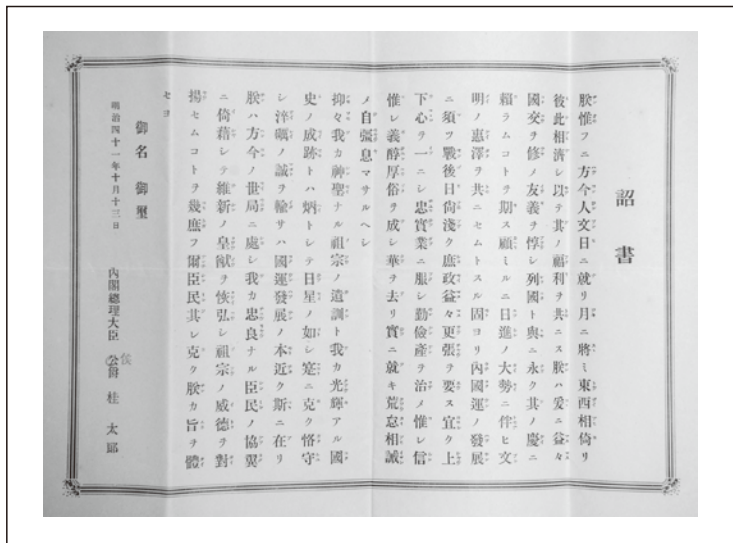
当時の日本は、日露戦争を経て国際的な地位を高める一方、国内には戦争による財政負担が残り、経済や産業の立て直しが求められていました。

こうした状況を背景として、詔書では、国民一人ひとりが自らの務めを自覚し、それぞれの仕事に励むことを求めています。さらに、勤勉と儉約を心がけ、華美やぜいたくを慎み、外見よりも実質を重んじることの大切さが説かれました。

また、人々が互いに信義を守り、協力して産業を発展させ、社会と国家の安定に尽くすことも示され

ています。個人の日々の努力が、国家全体の発展につながるという考え方が、この詔書には表されています。

戊申詔書は、法律や命令のように具体的な規則を定めたものではありません。詔書から明治後期の日本が、日露戦争後の経済再建と社会秩序の安定を進めるため、国民にどのような姿勢を求めていたのかを知ることができます。



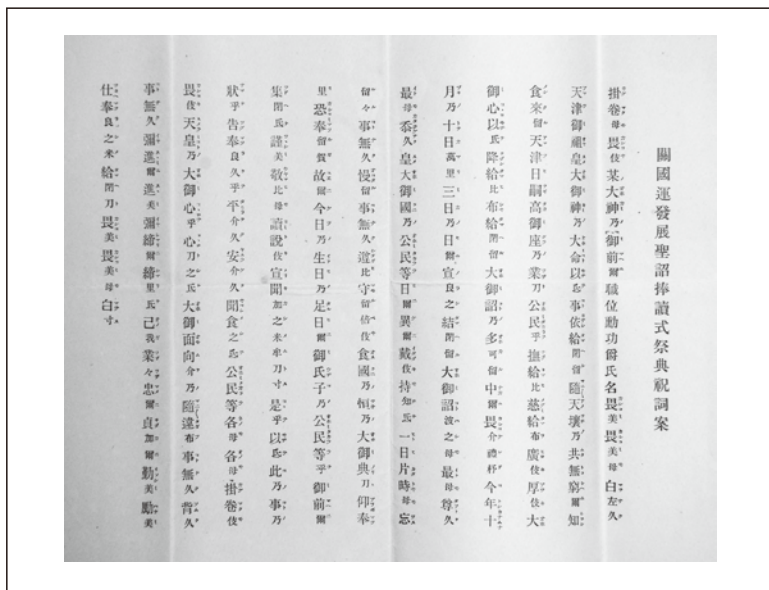
資料No.84 戊申詔書

国運発展に関する聖詔奉読式祭典祝詞案

この資料は、明治41年（1908年）に発せられた「戊申詔書」を神前で奉読する際に、併せて奏上するために作成された祝詞の案文です。表題には「国運発展聖詔奉読式祭典祝詞案」と記されており、詔書が発せられたことを神々に奉告するとともに、その内容を人々が常に心に留め、日々の務めに生かすことを願う内容となっています。

戊申詔書は、国民に対して一致団結して努力するよう呼びかけたものであり、教育勅語と並ぶほど国民に強い影響を及ぼしました。渙発後、日本各地の役場や学校などで奉読会が開かれ、本祝詞の案文は、神社において奉読式祭典を執り行う際の参考と

して示されたものと考えられます。日露戦争後の日本が、財政や産業の立て直しを進めるなかで、国民にどのような役割や生活姿勢を求め、それを神社の祭祀を通じて地域社会に伝えようとしたのかを知ることで、貴重な資料です。



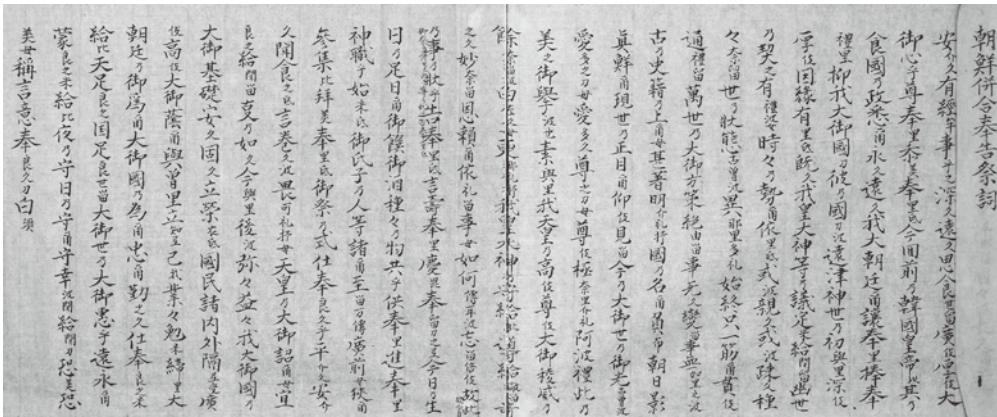
資料No.85 国運発展に関する聖詔奉読式祭典祝詞案

朝鮮併合奉告祭詞

この祝詞は、明治43年（1910年）に行われた韓国併合について、神前に奉告するために作成された「朝鮮併合奉告祭詞」です。

明治43年8月22日、日本と大韓帝国との間で「韓国併合ニ関スル条約」が調印され、同月29日に公布・発効しました。これによって大韓帝国は日本に併合され、朝鮮半島は昭和20年（1945年）まで日本の統治下に置かれることとなりました。

この祝詞では、併合の出来事を神前で奉告し、国民が安穩に暮らすこと、国の基盤が固まり、繁栄が続くことなどを祈願しています。文中では「我大御国刀彼乃国刀波遠津神代乃初與里深伎厚伎因縁有里氏」と記され、日本と朝鮮は神話の時代より深く関わりがあることに言及しています。



資料No.86 朝鮮併合奉告祭詞

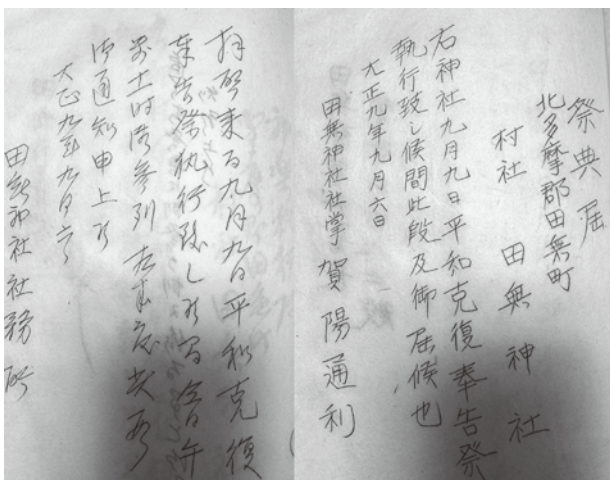
平和克復奉告祭の届出

大正9年（1920年）9月9日に田無神社で「日独戦争戦勝奉告祭ならびに平和祈願祭」として「平和克復奉告祭」が斎行されました。この祭典の祝詞については、以前、田無神社社報第46号において紹介しています。

第一次世界大戦は大正7年（1918年）11月の休戦によって、戦闘は事実上終結しました。その後、大正8年（1919年）6月にヴェルサイユ条約が調印され、翌大正9年（1920年）1月に発効したことで、戦争は正式な終結を迎えました。

大正9年は、1月に国際連盟が正式に発足し、日本が常任理事国として加盟する一方、春頃からは、第一次世界大戦中の好景気の反動により、「戦後恐慌」が発生した激動の年でもありました。

こうした社会情勢



資料No.87 平和克復奉告祭の届出

のなか、全国各地の神社では、戦争の終結と平和の回復を神前に奉告する祭儀が斎行されました。「克復」とは、失われたものを取り戻し、元の状態に戻すことを意味します。そのため、「平和克復」という言葉には、単に戦争の終結を祝うだけでなく、戦争によって乱れた社会の秩序や人々の暮らしを立て直し、再び平穏な世の中を取り戻したいという願いが込められていたのではないかと、筆者は考えています。

田無の映画館

戦後の田無には、地域の人々に親しまれた三つの映画館があった場所。現在では映画館のあった場所も大きく姿を変えています。当時は映画が人々にとって身近で大きな娯楽の一つであり、映画館は町のにぎわいを支える大切な存在でした。テレビがまだ各家庭に広く普及していなかった時代、映画館には新作映画を楽しむに多くの人が足を運びました。上映作品の話題が家庭や職場、学校で交わされることも多く、映画は当時の暮らしや流行、価値観に大きな影響を与えていました。

このたび、海老沢進氏よりご提供いただいた貴重な資料のなかから、田無の映画館などで配布されていたチラシが見つかりました。チラシには、当日上映されていた映画の題名や出演者、上映日程などが記されており。また、文字の配置や宣伝文句からは、観客の関心を引こうと工夫を凝らした、当時ならではのデザインも感じられます。

また、かつて映画館が建っていた場所の当時の写真や現在の様子については、滝島俊氏および西東

京市図書館よりご提供いただきました。資料や写真の選定に際しても、滝島氏には多大なるご尽力を賜りました。ここに記して、心より御礼申し上げます。

写真を見比べると、建物や道路、周辺の町並みに変化し、田無の街が長い年月のなかで発展してきたことが分かります。一方で、今も変わらず残る道筋や風景から、かつての映画館の姿を思い浮かべることが出来る場所もあります。

映画館はすでに姿を消しましたが、そこで上映された数々の作品や、胸を躍らせながら映画館へ通った人々の記憶を、今もチラシから感じ取ることが出来ます。

資料を通して、かつて田無に映画館があった時代の活気や、人々の暮らしに思いを寄せていただければ幸いです。

田無東映(旧田無館)

田無にできた最初の映画館は「田無館」でした。田無における

活動写真は、大正初期に新聞社が宣伝も兼ねて実施したのが始まりとされ、神楽や芝居などに加えて、新しい娯楽として重要な位置を占めるようになり、1918年(大正7年)9月に西武軌道会社車庫で開催された活動写真には人々が

続々と押し寄せ、盛会だったようです。

このような情勢を鑑み、佐々病院の初代院長の佐々時達氏が有志から出資を募って活動写真館を建設。「田無館」と命名され1928年(昭和3年)1月19日に開館の運びとなりました。

古老によれば、休日などに月2、3回無声映画を上映していましたが、戦後になると常時上映するようになったようです。

田無館は酒井平太郎氏によって買い取られ、「田無東映」となり上映を続けていましたが、1966年(昭和41年)に閉館しました。跡地にはイトーヨーカドーが建設されました。

その後、田無駅北口再開発により町の区割りは一変し、イトーヨーカドーはアスタビルにテナントしました。田無東映があった場所は、現在の地図ではアスタビルの北西の地下街入口付近から道路にかけての場所になります。

東映時代の写真には、「太陽に突っ走れ」(1966年、東映)、「汐風の中の二人」(1966年、松竹)、「おはなはん第二部」(1966年、松竹)の看板が掲げられており、閉館間際には3本立て上映だったのかも知れません。

出典…熱血田無新聞第7号・田無史第三巻通史編



田無東映 昭和41年頃撮影 西東京市図書館蔵



現在の場所 滝島俊氏撮影



現在の場所 滝島俊氏撮影



田無文化入り口 昭和35年頃(図書館許可の上、田無市史からデータ作成)



現在の場所 滝島俊氏撮影



田無銀映 昭和41年頃(西東京市図書館蔵)

田無文化（映画劇場）

田無文化（田無文化映画劇場）は、青梅街道の北側にあり、当時の大和屋金物店の脇を入った裏手にありました。田無の老舗酒屋「箱根屋」の子息が建てたもので、1955年（昭和30年）の1月に開館しました。市川崑監督の1964年（昭和39年）の東京オリンピックの記録映画「東京オリンピック」を当時の小学生は学校の授業の一

環として鑑賞した映画館だったようです。映画産業の斜陽化に伴い、最終的にはポルノ映画館やストリップ劇場となったようですが、1970年（昭和45年）5月に閉館したようです。

場所は現在の田無町3丁目1番、ラ・ベルドゥーレ田無に入居する「たなし中村眼科クリニック」あたりにあります。

出典…熱血田無新聞第7号

田無銀映

田無銀映は青梅街道から駅に向かう通称「田無銀座通り」にあり、田無東映と道を挟んだはず向かいにありました。田無東映の酒井氏が1956年（昭和31年）に新たにオープンさせた劇場で、田無文化に対抗するために作られたと言われています。左右に開くスクリーンカパーは最新式でした。しかし、映画産業の衰退に伴い、1970年（昭和45年）に姿を消して

います。

所在地の東南角は現在の「福のから」ですが、その大半は都市計画道路の建設により現在は道路となっています。

写真が写されていた時は、「007 ゴールドフィンガー」（1965年日本公開）、「おかしな世界」（1963年日本公開）を上映していたようです。

出典…熱血田無新聞第7号

田無東映ニュース

TEL(田無)247

大映スコープ 絶天然色

王者の剣



東映スコープ 絶天然色

大菩薩峠 (完結篇)

白い通り魔

(6月24日) 30日

8日公開

東映スコープ

千羽鶴

悟秘帳

出世双六

八草のり平

三木のり平

大川 虎太郎

東映スコープ 絶天然色

天下無双の剣

市川右太衛門・大川 橋蔵

大友 柳太朗・長谷川裕見子

きまぐれ左近の風流必殺剣対道満の秘剣

音無ししの太刀!

次週豪華娯楽篇!

(7月1日~7日)

東映スコープ 絶天然色

「風流使者」

天下無双の剣

市川右太衛門・大川 橋蔵

大友 柳太朗・長谷川裕見子

きまぐれ左近の風流必殺剣対道満の秘剣

音無ししの太刀!

東映スコープ

「台風息子」

花形三銃士

小野 遺・有光洋二

ラブシーンには弱いけど喧嘩だつたらま

かしとけ! 痛快高校三人組がてんやわん

やの珍騒動!

大映スコープ

魔笛若衆

鶴見 丈二・島田 龍三

五十万円

ボタン、ボタンが五〇万円も

あるつて本当です。

田無町本通り前澤装粧品店につ

らり揃ったボタンは種類で一五

〇、個数で五九七〇〇こんなに

多数揃っています。

貴方のさがす

ボタンは必ずあります。スタ

イル・アイデア万点、ボタンな

ら前沢へ

チャックが修理出来ます。

これも本当です。奥さまお嬢さ

んもう大丈夫、前沢のチャック

はこわれても修理が出来て何年

でも使えます。

チャックは修理出来ることをお

忘れなく!

田無町本通りTEL四三二

前澤装粧品店

田無東映ニュース(昭和34年)

田無文化



ポンペイ最後の日

西部の渡り者

叫ぶ頭蓋骨

手藝講習会

毎週金曜日です

ビーズ手芸 クロスステッチ

タムタム編 スエーデン刺繍

レース編 こざん刺繍

手芸材料なら全部取揃えてあります

田無町本通り

マエザワ

近日上映

巨獣

ホム族の恐怖

ニューヨークの休日

天竺色スライム

ステアプリウス

シェーブルイヌ

サリフ・ワシヤー

陽春の特選番組

3月7日~14日

疲れているから俺は休まんぞ!

明日のことなんか知らんもんか!!

勝手にしやがれ

ジーン・セバーク・ジャン・ポール・ベルモンド

フランス映畫

フランス映畫の魁才

ローベル・ワレツソン脚本監督

鬼づまるスリルに終る台する空前の迫力!

初めましてスクリーンに描かれたスリッパ男!

スリ

マルタン・パサール・マリカ・グリーン

東映

花が道中

若殿千両

坊ちゃん野郎

銀映座

太平洋の

かづの屋

出せコリス

進路を取

馬車は行

田無文化チラシ(昭和36年)

14

昭和三十四年五月十九日(土)

六

田無銀映座

TEL 田無 466

河は呼んでる 樹

菩提 提

フランススコップ 絶天然色

(5月13日・19日)

ピスタピジョン 絶天然色

BOOK、BOOK、BOOK、

未来ある多くの

読書に奉仕する店

新刊図書販売

やまこし書店

田無文化傍栄協通り

BOOK、BOOK、BOOK、

田無市場

電話(田無) 665の

勢林堂

味と栄養

きつと御氣にめす
お茶とパンの
お菓子やパンの
お菓子やパンの
お菓子やパンの
お菓子やパンの

特売日 8日 18日 28日 定休日 22日

近日上映

ワリスコフ
松竹グランドスコップ
日活スコープ
おヤエの家つき女中

高橋の山崎ヨシ子
加田村 喜弘
海老沢 真一

次週特選番組

(5月20日～26日)

松竹グランドスコップ

いたづら

有馬稲子・高橋貞二・杉浦直樹

桃色封筒の偽ラヴレターがふくらませた
果しない空想と美しいバグ色の恋の夢ノ
志賀直哉の名作 監督 中村 登

大映スコープ

母のおもかけ

根上 淳・淡島千景

亡き母の面影を胸に、父の愛情を恋う幼
なき者……………

純真な父子の情を描く佳劇ノ

松竹グランドスコップ

幸福な家族

石浜 朗・小山明子

義理にしられぬかに弱い女性……………

心過きし人々の中に描く抒情と清純の大作

鮎は

喜代川へ

出前迅速

電話田無四七一

検取機ドレイズ式ワンタッチダイヤル11

機別による正確なる検取

各服科医指定服職調整

時計・メガネ・ユニバー・喫煙具

貴晴堂時計店

田無駅前通り

TEL 田無四六九

田無銀映座チラシ(昭和34年)

次週上映番組

(28日～12月4日)

東映作品

『水戸黄門漫遊記』

鳴門の妖鬼

月形龍之介・喜多川千鶴・阪東妻三郎
阿波踊りの渦中に突如起った殺人事件/
黄門を狙う悪家老と鬼面武士の一団、
鳴門の渦汐を背景に、お馴染配役が空前
の大あばれ!

監督 伊賀山 正光

緑眼童子(第二部)

伏見扇太郎・月丘千秋・三笠博子

緑眼童子は果して誰か?

松平三万石の謎をつく黒太郎の必殺剣決
乱萬丈、お待ちね解決篇

監督 内出 好吉

次週予告

東映作品

「水戸黄門漫遊記第十話」

鳴門の妖鬼

★解説★

月形竜之介の青門ジラースも、数々本一編をこなして、こんどは風流舞臺で、逆鳴門の渦汐を乗り切る。阿波踊りの列隊に入りこんだ。急所を狙い、黒面顔の刺客の手を避けて、両足踏破りし二十万石の陣取無明。和装姿を取り替へて敵対する豪傑赤田源五郎の邪心毛。一夜、時勢特殊な夜の騒ぎを語り廻る良縁ある狂言囃。物語の要諦、正義善悪の糾纏、狂瀾、阿波踊りの真只中に見え隠れの陰謀など。

監督は市川崑、撮影は杉江正二、キヤスロは眞木洋主とお馴染み。月形竜之介之外、加藤昌男、それと難逢はるゝを加入、喜多川千鶴、黒川花岡、沢村南、東京海軍のレイニーノードに随伴警察使の重鎮坂寛治等の参加である。強力メンバーによる痛快時代活劇である。

近日上映

東映作品

神出鬼没

お母さん行つてきます

月丘千秋・岡田ひと里

大友柳太朗・長谷川裕見子

写真は次週上映の（今日と拳銃）

MOVIE WEEKLY
田無映画劇場

TEL 田無247番

今週の映画

(21日～27日)

東映作品純天然色

夕日と拳銃

緑眼童子(第一部)

田無映画劇場チラシ(昭和31年)

田無映画街ニュース

No.53



黒い河

★解説
作中に問題作を発表して気を吐く小林正樹監督
「黒い河」は、原作富島健夫、脚色松山善三によるものである。
これは、レストランのウェイトレスをしている静子という若い女が、人斬りブローと呼ばれる与太者に暴力で犯され、一旦は絶望的な生活に叩き込まれてしまうが、彼女は西田という大生と親しくなるにつれ、度々生活から自分を引き上げようとする。次第に与太者をも肉体で愛し始めているという自分の女の生理にリフ然となり、遂にこの与太者を殺そうと決心するという物語設定であるが、小林監督は「殺人」という自分自身を滅ぼすこんな形でしか自分を救えなかった女の、よりゴリの心理を追った。子方あるタチで画面に叩きつけてこない」と語っていた。小林監督一流の迫力ある異色作である。

女のはらわた
女の裏窓

文	化	東	映	銀	映
裸の太陽	彼奴を生かすな 白人の娘	黒い高橋	あらくれ荒野 新東宝大活劇	悪魔大 わんぱく天使	虹をさがす子 大映大活劇

6月12日

手芸講習会▶毎日

ビーズ手芸	クロスステッチ	タムタム編
スエーデン刺繍	レース編	こぎん刺繍

手芸材料なら全部取揃えてあります。

マエザワ

田無町本通り TEL(6) 4432

田無映画街ニュースNo.53(昭和38年)

田無銀映・東映御案内



銀映 7日～13日 東映

椿三十郎 母の谷
猫と鯉節 女と三悪人

手芸講習会——毎日です

ビーズ手芸	クロスステッチ
タムタム編	スエーデン刺繍
レース編	こぎん刺繍

手芸材料なら全部取揃えてあります

マエザワ

田無町本通り TEL(6) 4432

次週上映豪華番組

東映	銀映
おしやれ狂女 千客万来 佐田 啓二 岡田 茉莉子	猫がまたてんぐにさる 今年のお恋 悪魔の名 八人目の敵 北原の照井 クリーニング店へ 御用命下さい(向)〇一三六 煮豆にこん布の佃煮は 製造直売の添田へ 食べるものなら なんでも揃う ソエタ百貨店

フジ洋装店

西武柳沢駅前通り
T L(六)二七六六

婦人子供服加工
技術で定評のある
貴重な衣類の
御手入れには

田無銀映・東映御案内(昭和36年または37年)

神社からのお知らせ

兼務社例大祭のご案内

阿波洲神社では9月13日（日）午後2時、尉殿神社では10月1日（木）午後1時、下保谷天神社では10月10日（土）午後2時に、例大祭における本宮祭が斎行されます。どうぞ例大祭にあわせてご参拝ください。

西の市

11月7日（土）（二の酉）、11月19日（木）（二の酉）の日程で、西の市（熊手市）を開催いたします。一の酉・二の酉ともに、午後9時より社殿にて「大酉祭」の祭事を執り行います。両日とも、境内は熊手屋や各種出店で賑わいます。ぜひ西の市（熊手市）にお越しください。

【時間】 正午～午後10時

新嘗祭

新嘗祭は、宮中恒例祭典の中でも最も重要なものであり、現在でも天皇陛下自らお育てになった新穀をお供えになります。

田無神社や保谷三社においても、稲の収穫を祝い、翌年の豊穡を祈

願する新嘗祭を斎行いたします。

【斎行日程】

- ・ 田無神社 11月23日（月） 午前10時～
- ・ 尉殿神社 11月23日（月） 午後1時～
- ・ 天神社 11月23日（月） 午後2時～
- ・ 阿波洲神社 11月23日（月） 午後2時～

絵馬デザインコンテスト

田無神社千支絵馬デザインコンテストの作品募集は、8月31日（月）をもって締め切りました。西東京市をはじめ、全国各地から数多くのご応募をいただきました。作品は9月中旬、切絵作家・小出菟氏、漫画家・クロマツテツロウ氏を選考委員に迎え、厳正な審査を行い、入賞4名、入選25名を選出する予定です。

全国から寄せられた応募作品の中から、入賞された4名の方の作品は、9月下旬に田無神社公式ホームページにて発表いたします。また、入賞・入選作品は、10月上旬に「田無ASTA（アスタ）」2階センターコートにて展示を予定しております。

七五三参り

田無神社において、立派に成長されたお子様の姿を神様にご覧いただき、これまでの成長への感謝と、今後の健やかな成長をお祈りいたします。

ご祈祷の予約は不要です。お申込み順にご案内いたします。混雑期には、15～30分ほどお待ちいただく場合がございます。

初穂料は5,000円・10,000円・20,000円以上の3種類をご用意しております。ご祈祷の内容は同一ですが、授与品やお札の大きさなどに違いがあります。

【ご祈祷受付時間】 午前9時～午後4時

お正月縁起物

破魔矢などの縁起物を令和8年12月1日（火）より頒布いたします。これは、大晦日や三が日などの混雑する時期を避け、ゆとりをもって授与所でお受けいただけるようにするための取り組みです。

旧例祭日

9月19日（土）は田無神社の旧例祭日です。午後3時から摂社の龍神社（黒・白・赤・青）の例祭

祭典（五龍神祭）を執り行います。どなたでもご参列できますのでどうぞご参拝ください。

一楽萬開札

「令和9年の吉方は南」

11月23日（新嘗祭）から2月3日（節分祭）までの期間、社務所にて「一楽萬開札」を授与いたします。お受けになりました札は、その年の吉方にお祀りください。

一楽萬開札を受けることで、龍神様より「最初の楽」をいただけることとされています。この最初の楽を「一楽」と呼び、一つの楽が次の楽を呼び、さらに楽が重なり集まることで「萬の道」、すなわち人生が大きく開かれる——これを「二楽萬開」といいます。



一楽萬開札

夏の祭典



令和8年 夏越大祓



令和8年 鎮火祭



令和8年 津島神輿渡御



令和8年 天王祭 直会の準備



令和8年 津島神輿 動座祭



令和8年 津島神輿渡御



令和8年 御田植祭



令和8年 お人形感謝祭